

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2008年6月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2008.html)

＜平成20年度産業応用部門事業計画の要点＞

1. 活動方針（今年度の重点施策等）

平成19年度は、平成17年度からスタートした研究調査運営委員会、論文委員会、編修広報委員会の3本立てに加えて、国際活動WGを立ちあげた。平成20年度は、この体制をベースに論文誌の充実をさらに推進する。また、会員の満足度向上、産業構造の変化をふまえた新分野への取り組みと、会員の拡大、国際化の推進を目的とした活動を行なう。以下に具体的な重点施策を示す。

- (1) 論文誌関連：連携強化を図った論文委員会と技術委員会の体制およびエディタ制の充実や電子投稿システム、電子査読システムの定着化により、査読期間のさらなる短縮、研究会や国際会議からの論文投稿の促進と共に、海外からの投稿および海外査読者の増加を図り、論文誌を充実する。さらに、論文投稿料減額の可能性の検討、特集号での解説論文の充実、電子ジャーナルのあり方、論文処理手続きに関して検討する。（部門誌総ページ発行予定：1872ページ）
- (2) 広報関係：D部門のホームページ、特に英語版の充実を図る。ニュースレターの編修効率化と発行リードタイムの短縮、英語ニュースホームページを検討する。さらに、論文の書き方や返送になる論文の問題点などのWeb掲載を検討し、さらなる情報発信を行う。（ニュースレター総ページ発行予定：105ページ）
- (3) 国際化関連：部門国際活動WGを中心に、国際化の方針と具体的内容を検討し、新たな常設委員会の設置を検討する。また、共通英文論文誌のSCI登録に伴い、共通英文誌を部門のレビューペーパーとし、部門の海外への発信方法として活用する。さらに、部門として海外の国際会議と連携を図る。特に、パワーエレクトロニクス関係のMOUの締結に基づき、日本、中国、韓国との連携を図る。
- (4) 研究活動関連：会員の満足度向上と部門活動活性化のため、従来D部門としてカバーし切れていない技術分野について調査検討する専任担当を置き、技術委員会の新設を具体的に加速させる。各技術委員会で、それぞれの特徴が発揮できるような中期的な活動計画を策定する。技術報告書発行作業の迅速化、効率化を図る。（技術報告発行部数予定：20点、研究会開催数予定：50回、研究会論文総数予定：840件、調査専門委員会新設総数予定：26）
- (5) 講演会、講習会：会員の知識・技術の向上、会員拡大に寄与できる講演会や講習会（産業応用フォーラムやシンポジウム）、見学会、子供理科教室等を開催する。産業応用フォーラムの主催が特定の技術委員会に偏る傾向が見られるため、新規の技術委員会の参加を促すよう積極的に働きかける。フォーラム開催予定：9回
- (6) 部門会計関連：部門収入予定 約105,215千円。部門支出予定：約101,537千円、繰越金予定：約3,678千円

2. 部門大会・国際会議の開催予定

- (1) 平成20年度部門大会：会期/平成20年8月27日(水)～29日(金)、会場/高知市文化プラザ“かるぼーと”、内容/一般セッション、ヤングエンジニアポスターコンペティション(YPC)、オーガナイズドセッション、シンポジウム、特別講演、懇親会、体験学習（子供理科教室）、テクニカルツアーなど、参加者数(予定)：1,000名
- (2) 平成21年度部門大会：三重大学で開催予定(計画中)
- (3) 部門共催の国際会議：

2008/10/17-20 ICEMS2008 Wuhan, China

3. 部門会員数の増減

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
6,301名	6,361名	6,356名(H19年12月末)	6,400名(平成21年3月末目標)

平成20年度は、国際活動WGを発展させて常設委員会とし、国際活動の推進を図るとともに、活動分野の拡大やスピーディーな査読システムの構築など、会員にとって魅力ある部門となるよう努めてまいりますので、活力ある学会を盛り上げていただきますよう、ご協力よろしくお願いたします。

産業応用部門役員会 総務企画担当